

<事業概要>

- ✓ 観光客の多様な交通手段の確保、移動利便性の向上等目的として、
- ✓ 令和6年7月25日から「観光2次交通結節点（北谷ゲートウェイ）」実証事業中。
- ✓ 北谷ゲートウェイは、北谷町美浜駐車場の一角に交通広場を設置し、バス・タクシー・レンタサイクル等多様な交通手段へのシームレスな乗り継ぎサービスを提供する「ターミナル」として運用。



<令和9年度の実施計画>

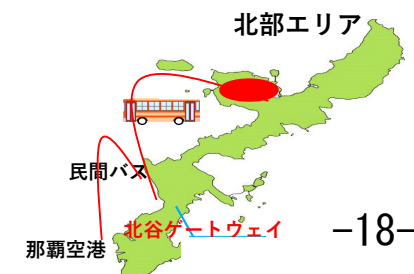
- 結節点実証事業の延長（北谷ゲートウェイの維持・運営）
- これまでの効果検証を踏まえ、今後の結節点整備に向けて、有識者を含めた検討委員会を設置し、
- 基本構想・基本計画を策定する。

<事業の必要性>

- 北谷ゲートウェイは、民間による空港直行便が運行を開始するなど、結節点として機能しはじめていますので本格稼働に向けた円滑移行を図るため実証事業の延長を行う必要がある。
- 第6次沖縄県観光振興基本計画及び沖縄県地域公共交通計画では北谷町を観光2次交通結節点と位置づけている。具体的な場所、規模、機能等の検討は、実証事業の効果検証を踏まえるとともに、県全体の交通施策と連携した取組とする必要がある。

<事業の効果>

- ✓ シームレスかつ多様な交通手段を確保することによる **観光客の移動利便性の向上**
- ✓ 見知らぬ土地で自ら運転しなくても安心して移動できる **公共交通の利用促進**
- ✓ 観光拠点エリア間の移動円滑化による **周遊性の拡大・観光消費額の向上**
- ✓ 公共交通の利用促進による **那覇空港の渋滞緩和**



様式2 宿泊税 充当希望事業 個票

No	6	事業名	観光人材確保支援事業	区分	拡充	分野	分野2
部局名	文化観光スポーツ部	担当課	観光振興課	担当		(IP)	

事業概要	観光業界の人材不足を解消し、業界全体の発展と地域の持続可能な成長を図る取組に要する経費。 (1)細事業1【観光人材マッチング支援事業(拡充)】 観光業界の持続的発展につながる人材の確保・定着を図るため、マッチング機会の創出、魅力発信の広報、交流や文化体験を含む職場体験バスツアーの実施。 (2)細事業2【修学旅行貸切バス等・宿泊施設受入体制緊急支援事業(拡充)】 県外から緊急的に受け入れる貸切バス乗務員や宿泊施設スタッフの渡航費、滞在費、研修費の補助。 (3)細事業3【観光人材確保・定着支援事業(拡充)】 観光事業者が行う「海外・県外」からの人材確保に要する経費や、採用後の定着に向けた取り組みの支援。 (4)細事業4【世界のウチナーンチュ人材活用事業(新規)】 日本国籍を持つ(在留資格が不要な)海外の県人子弟と、県内観光事業者とのマッチング支援 (5)細事業5【観光人材確保戦略の策定(新規)】R9単年度 分野別の需要予測を行い、それに基づいた「観光人材確保戦略」の策定と重点支援項目の設定。	事業期間	R9～R13
------	--	------	--------

活動指標	計画	成果指標			
	細事業1【観光人材マッチング支援事業(拡充)】 ・合同企業説明会13回(県内5回、国内5回、国外3回) ・インターンシップ受入400名 細事業2【修学旅行貸切バス等・宿泊施設受入体制緊急支援事業(拡充)】 ・補助事業者10件(貸切バス等事業者6件、宿泊施設4件) 細事業3【観光人材確保・定着支援事業(拡充)】 ・補助事業者100件 細事業4【(仮称)ウチナーンチュ支援事業(新規)】 ・合同企業説明会3回(県内1回、南米1回、ハワイ1回) ・インターンシップ受入10名	職場訓練や観光現場における様々な取組を伝えをる施策の実施により、観光業界への就職意欲が向上した割合			
		【指標設定の考え方】 観光業界における深刻な人手不足の背景には、「労働環境が過酷である」といった固定観念やイメージのミスマッチが存在する。合同企業説明会の開催や国内外からのインターンシップ受入を促進し、観光現場の魅力を発信し、OJTの取組を正しく「伝える」ことで、求職者の不安を払拭し、就業へのハードルを下げられたかを測る。			
		当初値(R5)	目標値(R13)	実績値	達成率
	80.0 %	83.0 %	人	%	

沖縄 観光人材確保支援事業の概要

宿泊税を財源とし、観光人材の確保と定着に向けた多角的な施策に充当されます。

1. 観光人材マッチング支援事業

事業者と求職者の出会いの場を創出し、現場の魅力を発信して入職を促進します。

2. 修学旅行貸切バス等・宿泊施設受入体制緊急支援事業

県外からの応援スタッフの渡航費や滞在費を補助し、急増する需要に緊急対応します。

3. 観光人材確保・定着支援事業

国内外からの人材確保や、採用後の離職を防ぐための定着支援を強化します。

4. 世界のウチナンチュ人材活用事業

海外の県人子弟の語学力を活かし、観光業の人手不足解消とグローバル化を図ります。

5. 観光人材誘致戦略の策定

需要予測やDX動向に基づいた、実効性の高い中長期的な誘致戦略を構築します。

様式2-2 宿泊税 充当希望事業 個票No.2

単位:千円

基金活用事業における取組実績				事業名		観光人材確保支援事業				
基金事業期間	令和	4年度 ~ 7年度	R4	13,368千円	R5	188,315千円	R6	231,023千円	R7	353,200千円
対処すべき課題		事業開始当初は、人手不足改善への生産性向上や行政主導のマッチング、OJT実施等による人手不足改善を主眼としてきた。しかし、実際の事業実施を通じ、従来の国内外向けマッチングや一過性の費用補助だけでは解決困難な構造的課題が浮き彫りとなった。マッチング面では、行政単独の手法による効率の限界やインターン受入事業者の偏りが生じており、特定技能(外食業)の新規受入停止も相まって、海外在住の日本国籍人材等と呼び込む新たなアプローチが急務である。また、生産性向上やOJTの効果を最大化するための補助制度は、対象経費の制約から現場の多様なニーズに柔軟に対応しきれていない。さらに、修学旅行等を含む受入体制強化には、従来の貸切バス等への支援だけでなく、現場の宿泊施設スタッフまで網羅した包括的な支援の拡充が必要である。今後はこれらを踏まえ、宿泊税を活用した実効性の高い事業展開が不可欠である。								
上記期間における取組内容(総括)						上記期間における事業効果(総括)				
【観光人材マッチング支援事業】:合同説明会やインターン促進等を実施。 ①インターン実績 397名 ②内定者 78名(国内61名、国外17名) 【修学旅行貸切バス等受入体制緊急支援事業】:県外からの乗務員等受入に必要な渡航費や滞在費等を補助。 ①補助事業者 6件、交付額 21,510千円 【観光人材確保定着支援事業】:人材確保・定着や受入に伴う経費を支援。 ①補助事業者 75件、交付額 58,262千円						定量的効果	—			
						定性的効果	職場訓練や観光現場における様々な取組を伝える施策の実施により、観光業界への就職意欲が向上した割合80%としており、R5年度は72.2%であったが、R6年度83.4%、R7年度81%と目標値を上回っている。			
今後の課題と見直し案	基金事業を経て見えてきた課題									
	これまでの事業を通じ、観光人材の確保・定着には従来の国内マッチングや一過性の費用補助だけでは解決困難と分かった。マッチング面では行政単独の手法の限界や受入事業者の偏りが課題である。また特定技能(外食業)の受入停止に伴い、海外在住の日本国籍人材等と呼び込む新たな広域アプローチの確立が急務となっている。さらに住環境等の課題に対し既存補助金は制約から柔軟さを欠き、貸切バスだけでなく宿泊施設スタッフまで網羅した支援の拡充も必要である。今後はこれらを踏まえ、宿泊税を活用した柔軟かつ実効性の高い事業展開が不可欠である。									
	宿泊税の活用に関する関係団体・事業者からの要望状況(意見交換含む)									
	宿泊事業者団体からは、既存の支援を継続しつつ、特定技能(外食業)の新規受入が停止したことによるホテル・旅館の料飲部門や飲食業において、海外からの新規呼び寄せや国内での資格変更による新戦力確保への支援に対する要請がある。									
	上記課題への対応を含む宿泊税移行に伴う事業のブラッシュアップ案									
今後の観光人材確保では、民間ノウハウによる特化型説明会への参画や、海外在住の日本国籍者などグローバル人材の戦略的確保によりマッチングの高度化・広域化を図る。またインターン受入事業者の拡大に加え、確保・定着支援の補助対象経費を緩和し、住環境整備等の課題に柔軟に対応する。さらに、修学旅行等の安定受入に向け緊急支援対象を宿泊施設スタッフへ拡充し、地域一体の持続可能な受入体制を構築する。										

様式2 宿泊税 充当希望事業 個票

No	7	事業名	観光人材キャリアデザイン事業	区分	新規	分野	分野5
部局名	文化観光スポーツ部	担当課	観光振興課	担当		(IP)	

事業概要	世界から選ばれる持続可能な観光地として沖縄県の観光客受入体制を強化するため、国内外の観光客が安心・満足する質の高いサービスを提供できる観光人材の育成を支援する。 細事業1【観光人材育成・養成支援事業（新規）】 多様な観光客のニーズに応えるため、現職の観光従事者を対象とした階層別研修等を実施することにより、現場のサービスレベルの底上げを図る。また、小中高・大学生等を対象とした出前講座等を実施することにより、将来の観光人材を養成する。 細事業2【観光従事者グローバルリーダー育成研修事業（新規）】 国内外での研修を通じて、沖縄観光を牽引する中核人材やプロを養成。産業全体の国際競争力を高め、現場のキャリアアップと定着を促進する。 細事業3【観光みらいユース派遣プロジェクト（新規）】 国内外の先進的な観光地経営を実地で学ぶプログラムを提供。国際的感性と課題解決力を育み、将来の観光産業や地域社会を牽引する次世代リーダーを育成する。	事業期間	R9～13
------	---	------	-------

活動指標	計画	成果指標			
	細事業 1【観光人材育成・養成支援事業（後継）】 ・ 階層別研修25回、観光業界向けセミナー5回 ・ 観光出前講座20回、お仕事体験イベント3回 細事業 2【観光従事者グローバルリーダー育成研修事業（新規）】 ・ 国内外研修2人 細事業 3【観光みらいユース派遣プロジェクト（新規）】 ・ 国内外派遣 3 人	「研修や国内外派遣で得た学びを、自社でのサービス改善、社内研修での共有、または地域でのイベント等で具体的にアウトプット（実践）した」と回答した参加者（現職者・学生・高校生すべて）の割合 【指標設定の考え方】 単に「受講した人数」ではなく、「現場のサービスレベルの底上げ」や「国際競争力を高める」という目的への進捗を測るため			
		当初値	目標値(R13年度)	実績値	達成率
		— 人	75 %	人	人

令和9年度宿泊税活用事業「観光人材キャリアデザイン事業」

本事業は、沖縄県が世界から選ばれる持続可能な観光地となるため、宿泊税を財源として質の高いサービスを提供できる人材を育成する取り組みです。
小学生から経営者層までを対象とした「関心醸成」から「専門特化」までの一貫したキャリアデザインを支援します。



1. 観光人材育成・養成支援事業

未来の担い手を育む「育成分野」



小学生から高校生を対象に、観光出前講座やホテルでの宿泊体験を通じて職業観を養います。

現場の質を底上げする「養成分野」



観光従事者向けに階層別研修や専門家派遣を行い、経営者から中核人材まで幅広く支援します。



2. 観光従事者グローバルリーダー育成研修事業

先進地での長期研修によるプロの養成



観光先進地での実践的な学びを通じ、沖縄観光の国際競争力を牽引するリーダーを育成します。



3. 観光みらいユース派遣プロジェクト

次世代を牽引する若手リーダーの育成



高校生や大学生等が先進的な観光経営を現地で学び、国際的な感性と課題解決力を養います。

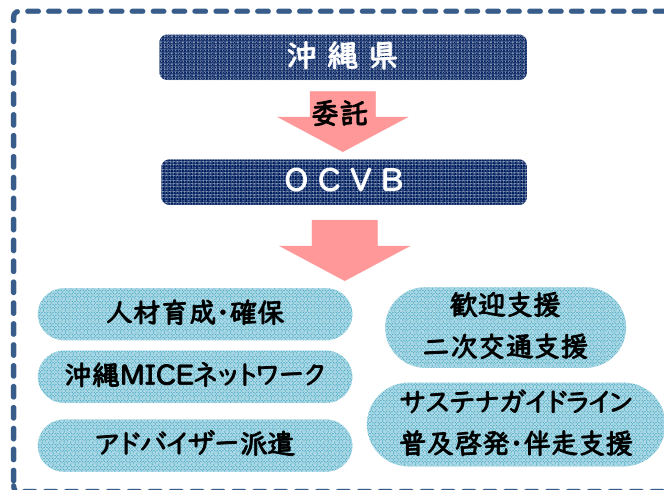
様式2 宿泊税 充当希望事業 個票

No	8	事業名	魅力あるMICE開催地づくり事業	区分	拡充	分野	分野2
部局名	文化観光スポーツ部	担当課	MICE推進課	担当		(IP)	

事業概要	グローバルなMICEに対応する「サスティナブルMICEの推進」、沖縄の芸能文化体験等を盛り込んだ「MICE開催歓迎支援の実施」、MICE開催を支える「専門人材の育成」および「産学官が連携した受入環境の構築」を一体的に推進し、経済効果の高いMICE需要に対応した全県的な受入体制を強化することで、「世界から選ばれる持続可能なMICE開催地」としてのブランド力強化を図る。 (1)MICE専門人材育成事業【拡充】 MICE事業者を対象に座学研修に加え、主催者ニーズに対応した企画・提案・誘致スキルの習得を目的とした実践的な研修を新たに実施する。 (2)うとぅいむち事業【拡充】 沖縄らしさを生かしたMICE開催歓迎支援や学会等への2次交通支援の回数および支援内容を充実し、実施する。 (3)沖縄MICEネットワークを活用したMICE受入体制強化【拡充】 MICE事業者間の情報連携、ネットワーク構築及び、大学等と連携した学生向け出前講座や新たに大学のキャリアセンター等と連携し、MICE業務の説明会を開催する。 (4) MICE専門アドバイザー派遣事業【拡充】 MICE事業者が抱える多様な課題に対応するため、MICE専門アドバイザーの派遣分野を充実させ、助言・指導を行う。 (5) 世界から選ばれる持続可能なMICE開催地事業【新規】 事業者へサステナビリティガイドラインの浸透及び持続可能なMICE開催の促進を図るため、新たな取組としてガイドラインの普及啓発を行うとともに、主催者への伴走支援を実施する。	事業期間	R5～R13

活動指標	計画	成果指標			
	主な活動指標 (1)MICE専門人材育成事業【拡充】 ・ MICE事業者を対象とした人材育成講座等の実施（11回） (2)うとぅいむち事業【拡充】 ・ MICE開催歓迎支援件数（211件） ・ 学会等への二次交通支援件数（30件） (3)沖縄MICEネットワークを活用したMICE受入体制強化【拡充】 ・ 次世代MICE人材の確保に向けた取組の実施（4回）など (4) MICE専門アドバイザー派遣事業【拡充】 ・ 専門アドバイザー派遣件数（20件） (5) 世界から選ばれる持続可能なMICE開催地事業【新規】 ・ 主催者伴走支援件数（2件）など	MICE開催による経済効果（直接効果） 【指標設定の考え方】 MICE専門人材の育成・確保、専門家派遣等によるMICE事業者の質の向上やMICE開催歓迎支援、サステナブルなMICE開催促進による沖縄開催の付加価値を高めることで、質の高い受入体制の強化に繋がり、結果としてMICE主催者・参加者の消費額増加による経済波及効果の拡大に繋がることから、本指標を設定する。			
		当初値(R6年度)	目標値(R9年度)	実績値	達成率
		473 億円	635 億円		%

○スキーム図



基金活用事業における取組実績							事業名		魅力あるMICE開催地づくり事業			
基金事業期間	令和	5年度	～	7年度	R4		R5	40,283千円	R6	68,865千円	R7	63,225千円
対処すべき課題		・ MICE開催における主催者のニーズが多様化する中、これらに対応できるMICE専門人材の育成・確保が必要となっている。また、沖縄独自の文化・芸能を生かした“沖縄ならではのMICE”を創出し、沖縄開催の付加価値の向上や他地域との差別化を図る取組が必要となっている。										
上記期間における取組内容（総括）							上記期間における事業効果（総括）					
・ MICE事業者向けの座学研修、MICEネットワークを活用したMICE事業者の人材育成、主催者等に対するMICE開催歓迎支援及びMICE事業者の課題に対して専門アドバイザー派遣による伴走支援を実施。							定量的	【MICEによる直接経済効果】 R4年：249億円 → R6年：473億円				
							定性的	-				
今後の課題と見直し案	基金事業を経て見えてきた課題											
	・ MICE専門人材の育成には、座学に加え実践研修による継続的なスキル向上が不可欠である。また、教育機関と連携した将来の人材確保や、事業者の多様な課題に対応する伴走支援も求められている。 ・ 主催者の満足度を高める歓迎支援を継続・充実し、国際需要が高まる「サステナブルなMICE」の開催を促進することで、沖縄の付加価値と持続可能な開催地としてのブランド力を強化する必要がある。											
	宿泊税の活用に関する関係団体・事業者からの要望状況（意見交換含む）											
	・ MICE人材の育成に向けた実践型研修の実施。・ MICE歓迎支援件数の増及び支援メニューの充実。 ・ MICE事業者間の連携強化による受入体制の向上。・ 次世代人材の確保を目的とした学生を対象とした取組みの拡充。 ・ MICE事業者が抱える個別課題への支援の拡充。・ サステナブルなMICE開催促進によるブランド力向上及びMICE事業者の質の向上。											
	上記課題への対応を含む宿泊税移行に伴う事業のブラッシュアップ案											
	・ MICE専門人材の実務スキル向上に向けた研修を実施し、専門人材の質の向上を図る。 ・ MICE開催歓迎支援及び学会等への2次交通支援の拡充を行う。 ・ 大学等と連携し、次世代MICE人材の確保に向けた取組の実施やMICE事業者間のネットワーキング構築を行う。 ・ MICE専門アドバイザー派遣の派遣件数及び派遣分野を拡充する。 ・ サステナビリティガイドラインの普及啓発及び活用促進に向けたMICE主催者等への支援を行う。											

事業実施の目的・効果

【目的】

グローバルなMICEに対応する「サステナブルMICEの推進」、沖縄の芸能文化体験等を盛り込んだ「MICE開催歓迎支援の実施」、MICE開催を支える「専門人材の育成」および「産学官が連携した受入環境の構築」を一体的に推進し、経済効果の高いMICE需要に対応した全県的な受入体制を強化することで、「世界から選ばれる持続可能なMICE開催地」としてのブランド力強化を図る。

【効果】

MICE主催者及び参加者の満足度の向上、MICE開催による経済効果（直接効果）の拡大。

実施内容

(1) MICE専門人材育成事業【拡充】

MICE事業者を対象にMICE専門人材育成講座等を実施。

(2) うとういむち事業【拡充】

琉球衣装体験ブースや泡盛試飲ブースの設置、芸能アトラクション派遣等の沖縄らしい歓迎支援メニューの提供や、貸切バス・ジャンボタクシーの借上支援を実施。

(3) 沖縄MICEネットワークを活用した産学官連携によるMICE受入体制強化【拡充】

MICE事業者間の情報連携、ネットワーク構築や大学と連携した人材確保に向けた取組を実施。

(4) MICE専門アドバイザー派遣事業【拡充】

MICE事業者の能力・技術の向上及びサービスのため、各分野（カーボンニュートラル、サステナブル、商品開発等）における専門アドバイザーの派遣を実施。

(5) 世界から選ばれる持続可能なMICE開催地事業【新規】

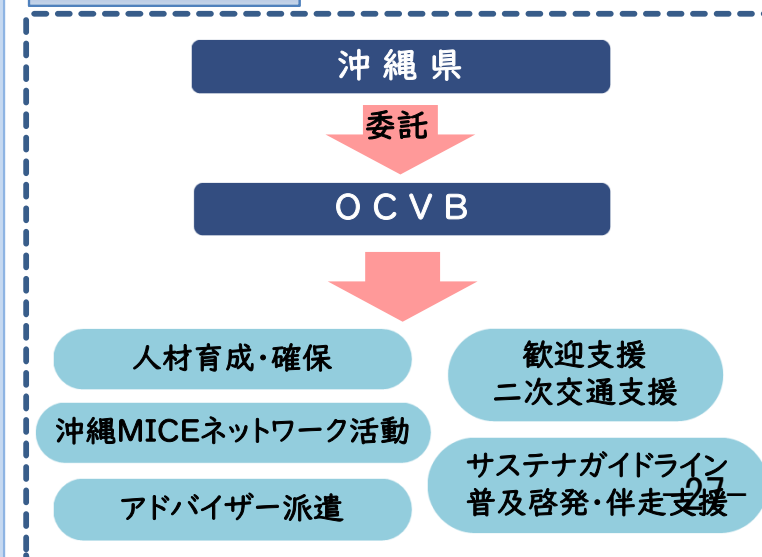
サステナビリティガイドラインの普及啓発及びガイドラインに沿ったMICE開催を促進するため、MICE主催者への伴走支援を実施。

成果指標

・MICE開催による経済効果（直接効果）

※新21世紀ビジョンの成果指標

イメージ図



様式2 宿泊税 充当希望事業 個票

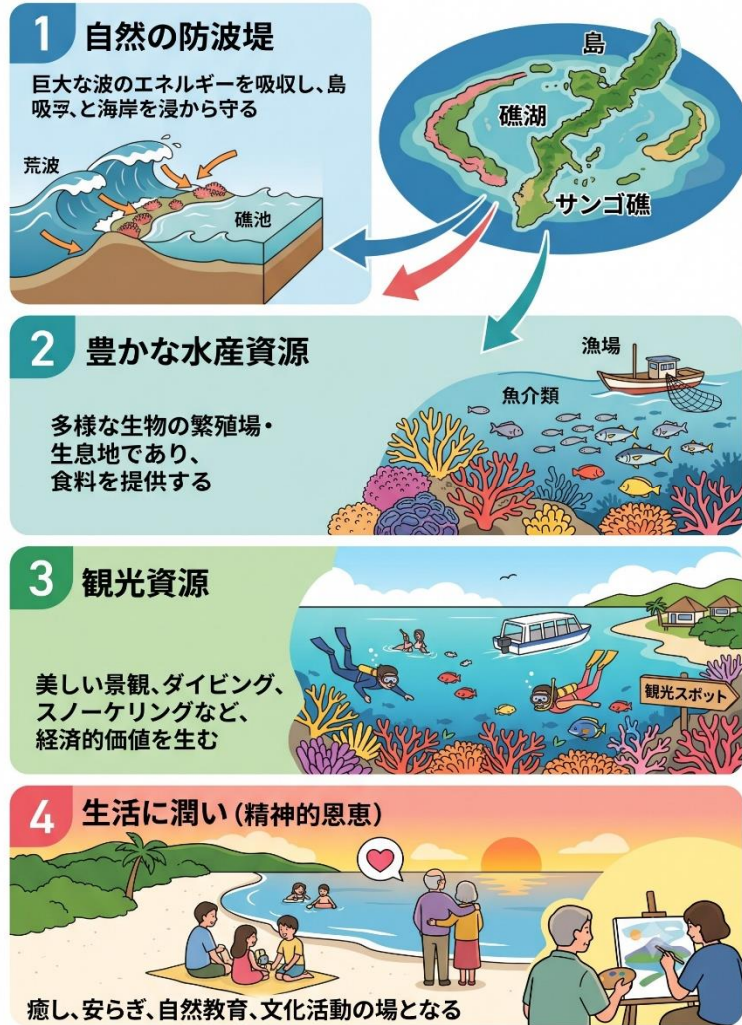
No	9	事業名	サンゴ礁環境保全・再生型観光推進事業	区分	拡充	分野	③
部局名	環境部		担当課	自然保護課		担当	(IP)

事業概要	沖縄県では、これまで観光事業者向けに「持続可能なマリンレジャーのための事例集」の作成やサンゴの養殖・移植事業等を実施してきたが、これらを組み合わせたサンゴ礁保全・再生型観光の体系的な展開は行われていない。 また、沖縄県のサンゴ礁についての科学的根拠を踏まえた共通認識が存在しないため、旅行者へのサンゴ礁に関するガイド内容は、事業者の経験等に依存している状況である。さらに、サンゴ礁について学べる拠点が少なく、修学旅行等の受け皿も不十分であり、観光客が利用可能なサンゴ礁保全・教育施設の充実には支援が必要である。これら諸課題を解決し、従来の「観光を消費する旅」から、旅行者と地域が一体となる「地域と共に創る旅」への転換を図るため、事業者・旅行者・県民が結びついた再生型観光を推進し、世界から選ばれる持続可能な観光地の形成を目指す。具体的には、①観光事業者への普及啓発、②観光客への魅力発信、③サンゴ礁保全・教育機能強化の取組みを実施する。	事業期間	R9～13

活動指標	計画	成果指標			
	本事業は観光客と事業者が協働する再生型観光への転換を推進するため、令和9年度から13年度までの5年間で以下の活動計画を実行する。 1. マリンレジャー事業者等の意識変革を促すため、サンゴ礁保全講習会を年3回以上実施し、適正ルールの普及を図る。	マリンレジャー等事業者が講習会に参加した人数 【指標設定の考え方】 令和6年度と令和7年度に実施したマリンレジャー等事業者向けサンゴ礁保全講習会に参加した人数の平均値を当初値とした。			
		当初値	目標値	実績値	達成率
		55 件	100 件		%

○スキーム図

サンゴ礁がもたらす4つの恵み(機能)



従来の「観光を消費する旅」から、旅行者と地域が
一体となる「地域と共に創る旅」への転換を図る

<観光事業者への普及啓発>

<観光客への魅力発信>

<サンゴ礁保全・教育機能強化>

マリンレジャー等事
業者向けサンゴ礁
保全講習会実施

サンゴ礁保全の取
組等啓発資料の
作成

マリンレジャー活動
がサンゴ礁生態系
に与えている影響
の調査及び対応の
検討

優良事業者認定制
度の検討

「サンゴ礁ストーリ
ーブック」の作成
及び普及啓発

「サンゴ礁ウィーク
(仮)」の実施
及び周知等

サンゴ礁の魅力
及び環境教育
情報発信

サンゴ新
種発見調査

サンゴ礁保全機
能強化支援
(養殖・移植機能
強化、係留ブイ設
置支援等含む)

サンゴ礁教育拠点
の機能強化支援

サンゴ礁環境教育
優良ガイド育成等
支援

旅行者・事業者・県民の三方良しを実現
世界から選ばれる持続可能な観光地の形成

基金活用事業における取組実績							事業名		サンゴ礁環境保全・再生型観光推進事業			
基金事業期間	令和	5年度	～	7年度	R4		R5	総額17,691千円(内、基金3,538千円)	R6	34,278千円	R7	31,074千円
対処すべき課題		生物多様性の保全、観光資源・漁業資源として重要な価値を有しているサンゴ礁の保全を図るため、観光・レジャーによるサンゴ礁への影響を整理し、最新の知見を収集するとともに、観光・レジャー事業者向けのサンゴ礁保全のための普及啓発を行う必要がある。										
上記期間における取組内容（総括）								上記期間における事業効果（総括）				
(1)観光・レジャーによるサンゴ礁への影響の把握及び対策の検討、(2)係留ブイの設置・利用によるサンゴ礁保全効果検証モデル事業の実施、(3)日焼け止めクリーム含有成分等のサンゴ礁への影響の情報整理及び対策の検討等を行い、観光客・レジャー事業者向けのサンゴ礁保全のための手引き書の更新版として、「持続可能なマリンレジャーのための事例集」を作成し、マリンレジャー事業者等への普及啓発として勉強会を開催した。								定量的効果	勉強会参加者 【R6】1地域（石垣市）、30名参加 【R7】3地域、79名参加（那覇31名、本部14名、石垣34名）			
								定性的効果	勉強会の満足度（アンケート結果） 【R6】満足5割、やや満足5割 【R7】那覇：満足6割、本部：満足8割、石垣8割			
今後の課題と見直し案	基金事業を経て見えてきた課題											
	マリンレジャーにおけるサンゴ礁配慮、保全を進めていくためには、地域におけるマリンレジャーの適正利用ルールをつくり、普及、遵守していく必要がある。											
	宿泊税の活用に関する関係団体・事業者からの要望状況（意見交換含む）											
	勉強会では、持続可能なマリンレジャーを進めていくうえでの課題として、公的機関とOTA（Online Travel Agent）などが連携したプロモーションを行い、活動に積極的に取り組む事業者にインセンティブを付与する支援を求める意見があった。また、「サンゴ礁保全再生活動促進事業」検討委員会では、委員長から今後の方向性について、マリンレジャー事業者を選択する基準として、環境配慮に配慮したマリンレジャー事業者が選択されることが低い現状を踏まえて、基金事業を活用して作成した事例集等を通じて、引き続き、意識変革を進める必要があるとのまとめがあった。											
	上記課題への対応を含む宿泊税移行に伴う事業のブラッシュアップ案											
	マリンレジャー事業者等の保全意識の向上及びサンゴ礁の魅力向上のために、講習会の実施やサンゴ礁利用事業者が参考にできる沖縄サンゴ礁ストーリーブックの作成を通し、普及啓発及び魅力発信を推進するとともに、サンゴ礁保全・環境再生や教育の機能を強化することで「観光を消費する旅」から「地域と共に創る旅」である再生型観光への転換を推進する必要がある。											

事業概要

沖縄県では、これまで観光事業者向けに「持続可能なマリンレジャーのための事例集」の作成やサンゴの養殖・移植事業等を実施してきたが、これらを組み合わせた「サンゴ礁保全・再生型観光」の体系的な展開は行われていない。

また、沖縄県のサンゴ礁についての科学的根拠を踏まえた共通認識が存在しないため、旅行者へのサンゴ礁に関するガイド内容は、事業者の経験等に依存している状況である。

さらに、サンゴ礁について学べる拠点が少なく、修学旅行等の受け皿も不十分であり、観光客が利用可能なサンゴ礁保全・教育施設の充実には支援が必要である。

これら諸課題を解決し、従来の「観光を消費する旅」から、旅行者と地域が一体となる「地域と共に創る旅」への転換を図るため、各主体（事業者・旅行者・県民）が結びついた再生型観光を推進し、世界から選ばれる持続可能な観光地の形成を目指す。具体的には、下記の取組みを実施する。

- ①観光事業者への普及啓発
- ②観光客への魅力発信
- ③サンゴ礁保全・教育機能強化

事業期間：令和9年度～令和13年度

R9年度実施内容

- ①マリンレジャー等事業者向けサンゴ礁保全講習会の実施 等
- ②「サンゴ礁ストーリーブック」の作成及び普及啓発 等
- ③サンゴ礁保全機能強化支援 等

事業実施の成果指標

マリンレジャー等事業者が保全講習会に参加した人数

【当初値】

55人 ※R6・7年度に実施した講習会に参加した1年当たり平均人数

【1年当たり目標値】

100人 ※実績値の約2倍。登録スノーケリング業の届出事業者（1,450事業者）の約6.9%に相当。

年度毎の取組

	R9	R10	R11	R12	R13
観光事業者への普及啓発	●	●	●	●	●
観光客への魅力発信	●	●	●	●	●
サンゴ礁保全・教育機能強化	●	●	●	●	●

イメージ図（R9）

＜観光事業者への普及啓発＞

マリンレジャー等事業者向けサンゴ礁保全講習会実施

サンゴ礁保全の取組等啓発資料の作成

マリンレジャー活動がサンゴ礁生態系に与えている影響の調査及び対応の検討

優良事業者認定制度の検討

＜観光客への魅力発信＞

「サンゴ礁ストーリーブック」の作成及び普及啓発

「サンゴ礁ウィーク（仮）」の実施及び周知等

サンゴ礁の魅力及び環境教育情報発信

サンゴ新種発見調査

＜サンゴ礁保全・教育機能強化＞

サンゴ礁保全機能強化支援（養殖・移植機能強化、係留ブイ設置支援等含む）

サンゴ礁教育拠点の機能強化支援

サンゴ礁環境教育優良ガイド育成等支援

旅行者・事業者・県民の三方良しを実現
世界から選ばれる持続可能な観光地の形成

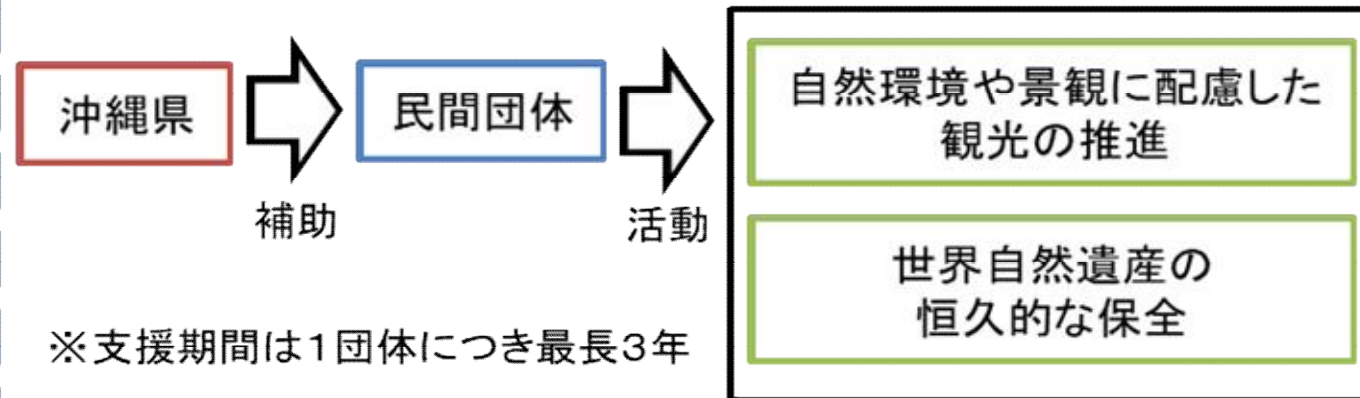
様式2 宿泊税 充当希望事業 個票

No	10	事業名	世界自然遺産地域活動支援事業	区分	拡充	分野	分野3
部局名	環境部		担当課	自然保護課		担当	(IP)

事業概要	本県の世界自然遺産地域であるやんばる3村（国頭村、大宜味村、東村）及び西表島において、豊かな自然環境や良好な景観の保全に資する活動を行う法人等に対し補助金を交付し、世界自然遺産地域の豊かな自然環境の保全と魅力ある観光地の形成を推進する。 ■ 補助制度の詳細 ・ 補助対象経費上限額：3,000千円（税抜）/回 ・ 補助率（交付額）：補助対象経費の9/10以内（最大2,700千円） ・ 期間制限と段階的縮減：同一団体への交付は通算3回（3カ年）まで。ただし、継続支援の場合、補助率は段階的に縮減する（1年目：9/10、2年目：9/10、3年目：8/10）。	事業期間	R6～R11
------	--	------	--------

活動指標	計画	成果指標			
	4 団体への活動支援（補助金交付） ○補助額：1 団体あたり2,700千円以内（新規3件、継続1件を想定） ○補助対象： (1)自然環境の保全・継承にかかる活動 (2)観光地景観形成にかかるクリーン活動 (3)自然資源の適正な利用や保全に関する周知・広報・PR活動 (4)豊かな自然環境や生物多様性の魅力を伝えるための人材育成	世界自然遺産地域における環境・景観保全活動を行う民間団体等の数 【指標設定の考え方】 民間団体による取組の促進により、世界自然遺産の価値を将来にわたり維持し、魅力ある観光地形成へ繋げるため。			
		当初値（R8）	目標値（R11）	実績値	達成率
		5 団体	10 団体		%

○スキーム図



補助対象:世界自然遺産地域における自然環境及び良好な景観の保全に資する活動

【活動内容】

- ・ 自然環境の保全・継承にかかる活動
- ・ 観光地景観形成にかかるクリーン活動
- ・ 自然資源の適正な利用や保全に関する周知・広報・PRにかかる活動
- ・ 豊かな自然環境や生物多様性の魅力を伝えるための人材育成にかかる活動



基金活用事業における取組実績							事業名		世界自然遺産地域活動支援事業					
基金事業期間	令和	6年度	～	7年度	R4	—	R5	—	R6	4,923千円	R7	8,005千円		
対処すべき課題		沖縄県の世界自然遺産地域の豊かな自然を守りながら、魅力ある観光地の形成を推進するためには、民間団体等の保全活動等の活性化を図る必要がある。												
上記期間における取組内容（総括）								上記期間における事業効果（総括）						
(1)令和6年度は4団体採択（新規4）、応募7件 ①ヤマネコ交通事故防止のための県道草刈、外来種駆除、ビーチクリーン等（204千円） ②陸からアクセスできない海岸の漂着ゴミ回収（2,340千円） ③フィールドガイドの人材育成（279千円） ④世界自然遺産価値促進事業（2,101千円） (2)令和7年度は4団体採択（継続3、新規1）、応募11件 ①陸からアクセスできない海岸の漂着ゴミ回収（2,458千円） ②ビーチクリーン普及啓発（150千円） ③世界自然遺産価値促進事業（2,700千円） ④イリオモテヤマネコのロードキル防止にかかるシステム開発（2,698千円）								定量的効果	(1)イリオモテヤマネコの交通事故（ロードキル）防止対策（県道草刈り、システム開発、レンタカー会社13社への案内ツール配布） (2)陸路アクセス困難な海岸での漂着ゴミ回収（2年間で計162トン袋を回収） (3)フィールドガイドの人材育成、世界自然遺産価値促進事業（シンポジウム延べ268名参加）					
									定性的効果	(1)希少種の保全と海岸の景観維持を達成 (2)世界自然遺産の環境保全に寄与 (3)地域の活動団体が5つ増加				
								今後の課題と見直し案	基金事業を経て見えてきた課題					
世界自然遺産地域における自然環境の保全活動や景観保全に資する活動等を後押しするため、最長3年間の補助期間を設定しているが、補助対象期間終了後の活動の維持に課題がある。														
宿泊税の活用に関する関係団体・事業者からの要望状況（意見交換含む）														
国頭村観光協会会長（OCVB理事）から、「世界自然遺産に係る取り組みに積極的に取り組んでほしい。必要であれば宿泊税の活用を検討してほしい。」との要望あり。														
上記課題への対応を含む宿泊税移行に伴う事業のブラッシュアップ案														
	予算の増額により補助件数を拡充する。地域の保全活動や質の高いガイド案内を後押しすることで、観光客にとって付加価値の高い「観光地ブランド」を確立し、自走できる民間団体を増加させていく。													